

## 有度丘陵の自然調査を始めよう！

柴 正博・湯浅保雄・諏訪哲夫・横山謙二



ふじのくに地球環境史ミュージアムのある有度丘陵

ふじのくに地球環境史ミュージアムは、有度丘陵の南西麓に立地しています。有度丘陵は、静岡市街の南東側にある標高が 307 m の有度山から北西方向にゆるやかにかたむいた斜面があり、南東側の斜面は急崖で駿河湾に面しています。北西の平坦な斜面は、日本平とよばれ、富士山や南アルプス、駿河湾や伊豆半島などが眺められる風光明媚な景勝地となっています。

有度丘陵は、今から約 30 万年前から 10 万年前までの地層からできていて、そのほとんどは安倍川の扇状地や三角州に堆積した礫層や泥層からなり、それらの地層が丘陵の南側の隆起により、5～10 度ほど北西側に傾斜しています。そのため、有度丘陵には日本平のような北西方向にゆるやかにかたむいた斜面をもつ地形がつけられました。有度丘陵の地質や化石については、最近では柴ほか (2021) の研究もあり、2019 年には宮澤さんによりナウマンゾウの化石が発見されるなど (横山ほか, 2019, 2020)、いろいろと調査が進んでいます。

有度丘陵の南東麓にある久能山には、国宝の東照宮があり、ここも景勝地のひとつですが、この森は、現在、静岡県でほとんど見られなくなった低山地の自然植生のスタジイ・タブノキなどの冬でも葉の落ちない照葉樹林からなります。このような山地の植生が海岸近くにそのまま残っているのはめずらしく、植物だけでなくタゴガエルなどの山地にすんでいる動物もここでは見られます。

久能山だけでなく、有度丘陵全体についても、この丘陵の自然、地質や植物、昆虫、その他の動物などの分布の特徴とその変化を、私たちは知りたいと思っています。ちょうど、ふじのくに地球環境史ミュージアムが有度丘陵にあることから、総合的な自然環境の調査とその記録としての標本採集ができればと考えています。この調査は、できる分野からでかまわないので、ミュージアムで活動する人たちの中で、参加できる人たちでまずは力を合わせて始めることができると思います。

植物については、調査対象をまず維管束植



久能山と北西に傾く久能山層の礫層

物として、確認された植物について1種につき3点以上の標本を作製し、採集日時や位置や生育環境もきちんと記録したいと思います。

昆虫、とくにチョウについては、有度丘陵は、ホソバセセリ、ミヤマセセリ、ミズイロオナガシジミ、アカシジミ、オオミドリシジミ、コツバメ、ジャノメチョウなどいわゆる里山的環境の落葉広葉樹林に生息する種が有度丘陵ではこれまでに確認されており、自然度が高い地域といえます。その中でも、ミヤマセセリ、オオミドリシジミ、ジャノメチョウは近年記録がないなど問題もあります。また、コウチュウ類、トンボ類でも近年減少している種がありましたが、ミュージアムの裏山での観察で、それらが確認されたとの報告もありました。このように、調べてみれば今後多くの新しい知見と再確認が期待されます。

このように、これまでの自然環境調査は、多くの分類群について行われていなかったことや、ライトトラップなどによる夜間の調査もあまり行われていませんでした。ですから、夜間も含めての多くの分類群についての1年を通した調査ができればと思います。

今後の調査活動については、各分野で連絡しあいながら、年間計画を立てて、なるべく多くの分類群の調査を行いたいと思います。また、調査にはできれば大学の学生や静岡市生物多様性戦略プロジェクトの生きもの調査員の参加も呼びかけ、少なくとも5年間は継続して行えればと思います。そして、その調査結果は毎年「東海自然誌」に発表できるようにしたいと思います。



草薙で発見されたナウマンゾウ切歯



ミュージアムの自然観察路で観察されたエンシュウムヨウランの花



ミュージアムの自然観察路で観察されたホソバセセリ

#### 引用文献

- 柴 正博ほか (2021) 静岡市有度丘陵の中部更新統、根古屋層上部から久能山層にかけての層序、堆積相および堆積シーケンス. 東海自然誌, no.14, 1-17.
- 横山謙二ほか (2019) 静岡県静岡市有度丘陵南矢部から新たに発見した長鼻類化石. 東海自然誌, n.12, 5-13.
- 横山謙二ほか (2020) 静岡県静岡市有度丘陵草薙より産出したナウマンゾウ *Paleoloxodon naumanni* の切歯化石と堆積環境. 東海自然誌, n.13, 7-17.